

1

説明文 段落

▼指導ページ P4～11▼

☆指導のポイント☆

- 形式段落「一行下げ=改行」・意味段落「いくつかの形式段落を意味のつながりでまとめたもの」の違いを説明。
- 「形式段落の要点をつかむ→意味のつながりから意味段落にまとめる→意味段落の関連から文章全体の構成をつかむ」流れを確認させながら、設問に取り組む。

板書例

練習問題

形式段落① || 話題 || さばく || 人間の活動に原因

形式段落② || 北アメリカ中央部の例

①日本 || バイソン || 肉食動物に食べられる || 増えすぎない

②プレーリードッグが穴をほる || 草原を耕す

③プレーリードッグ || クロアシイタチに食べられる || 増えすぎない

④草食動物が増・減 || 肉食動物も関係して増・減

⑤先住民 || バイソンの狩りをする || バランスをくずさない

↓ 生物どうしのつながり || バランスが守られる

基本問題1

形式段落①・② || 森林の役割

|| 日照りによる水不足から人々をすくう

形式段落③・④・⑤・⑥ || 森林の水の関係 || しくみ

森林の土 || スポンジ ↓ 雨水をすいこむ ↓ 地下にしみこむ ↓ 地下水

↓ しみだし、少しずつ集まる || 多くの年月をかけてわき水 ↓ 川

(↓ いちどに多量の水がでる || 洪水)

基本問題2

形式段落① || 話題 || さしみのもられた皿の小さな花 ↓ 食べられるか

形式段落② || 食べる「花」の説明

①日本 || 一年を通じて花がある ↓ 花を食べる

|| ミネラル類(リン・鉄・カルシウム)やビタミン類を体に取り入れる

②花を区別 || 「食べるられるか」「味はおいしいか」

|| 体にとってためになるか

③花の使い方 || 「薬」「味」「におい」「見た目」

形式段落⑥ || 花を食べること || 日本人が昔から身につけた「ちえ」

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P6)	問一 形式段落①注目。キーワード=「命」に着目。
	問二 選択肢の文末表現に注目させて形式段落⑤を整理。
	問三 土の「スポンジ」とは何かの説明=形式段落④。
	問四 森林の「しくみ」についての記述=形式段落⑤。「洪水」に注目。
	問五 話題を転換させている語=「それでは」に注目。
基本問題2 (P7)	問一 「形式段落①=話題提供・形式段落⑥=まとめ」→どちらにも使われている語に注意。
	問二 具体的な栄養分の名前に注目。
	問三 「区別」の内容は、直前の形式段落③に注目。
	問四 形式段落⑤の並列の表現に注意。
	問五 食べる花の具体例の内容の「まとめ」=本文全体のまとめ
練習問題 (P8)	問六 「最初の形式段落=話題提示→(説明部分)→最後の形式段落=まとめ」の形
	問一 もっともよく見られる説明文の構成パターン(=最初に問題提起)を確認させる。
	問二 「次」に注意。後の部分に内容が説明されている。
	問三 接続詞の確認。 [1] 反対の内容=逆接。 [2] 内容を付け加える=添加。
	問四 直後の段落の「～から」に注目。
	問五 次の文でその主な動物について具体的に名前(=プレーリードッグ)をあげている。
	問六 あてはまる動物名は「食べられる動物」に注意。
	問七 動物がたがいにバランスをたもつ関係を記述(形式段落②～⑥)のまとめ=形式段落⑦
	問八 「草原の豊かさ」の話を確認。
	問九 形式段落⑨を「動物」に着目して整理させる。
問十 「耕す」に注意。形式段落⑤に注目。	
問十一 草原が荒れていくまでを記述した部分を読み取らせる。形式段落⑨～⑪。	
問十二 「話題提示=形式段落①」のみ。形式段落②は「事実」の具体的説明を始めている。	

2

説明文 筆者の言いたいこと

▼指導ページ P 12～19▼

☆指導のポイント☆

- 「要旨」と「要約」の違いをおさえさせる→「要旨」をとらえさせる→「要約」を試みる。
「要旨」＝筆者のもっとも言いたいこと。「要約」＝文章全体を短くまとめたもの。
- 「話題」をとらえる→各段落の「要点」をとらえる→結論のなかで、中心となる文や語句を見つける→「要旨」をとらえる
→全体の「要約」＝「要旨」を中心にして各段落の「要点」をまとめ直す。

板書例

練習問題

形式段落①
|| 話題 ||
↓ ダニがわいて困る

形式段落②
|| 一説として || 同じように発生していたが気がつかなかった。

形式段落③
|| 筆者の言いたいこと || 日本人の住まいの変化が原因。

形式段落④～⑥
|| 今と昔の家屋の比較 (例) 伝統的な家：空気が完全に一体化
今の住宅：煙が外へ出ていかない

形式段落⑦・⑧
|| 今の住居環境
ダニの繁殖条件 ↓ 好条件
↓ ダニが大量にわく

形式段落⑦・⑧
|| 自然界へ放さない
◎ ときには駆除する

基本問題2

形式段落①
|| 話題 ||
↓ 日本の外来種について

形式段落② (③・④・⑤・⑥)
|| けなげに生きている
↓ (例) 人間がイヌを捨てたとする ↓ 食べ物求めてやってくる
特別な理由がない限りかわいそうに感じ追いはらわない
↓ 人間・在来の生物・外来種のいずれにもいいことはない
↓ 解決するにはどうしたらよいか

基本問題1

形式段落⑤
|| 「こわい」から「おばけ」が出る ↓ 「おばけ」は人の想像力が生み出した

形式段落②～④
|| こわい感情
|| 説明がはつきりつかないことにこわさを感じる
↓ (例) やみ・墓地はこわい
↓ 知らないことにこわさを感じる

形式段落①
|| 話題 ||
|| おばけは、なぜ夜だけ出るのか

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P14)	問一 「問題」＝最初に示されていることに注意。 問二 「その」の指示している部分に注目。 問三 「例えば」に注目。 問四 筆者の主張＝「まとめ」の段落＝形式段落⑤に注目。
基本問題2 (P15)	問一 かれら＝代名詞なので、それ以前の部分から内容を読み取る。 問二 形式段落③の接続語「たとえば」の内容に着目する。 問三 形式段落⑦以降に注目。ペットを飼うことについて具体的な内容が説明されている。
練習問題 (P16)	問一 指示語なので、それより以前の部分に内容が書かれていることに着目する。 問二 A＝家事においまわられていたに注目。B＝衛生思想から判断。C＝現代の主婦の特徴をまとめる。 問三 前段落の「伝統的な日本の家」について述べている部分に着目する。 問四 「障子のすばらしさをご存じでしょうか～」の後半部分から読み取る。 問五 形式段落④・⑤をまとめた内容が形式段落⑥であることに注目。 問六 「先にダニが入居していた」のはどこかに着目する。 問七 形式段落⑦で近年の都市住宅はダニの繁殖条件に絶好な環境であることが述べられている。

3

物語文 場面をつかむ

▼指導ページ P 20 ~27▼

☆指導のポイント☆

- (1) 「いつ」(時)・「どこで」(場所)のちがい→場面の変化をとらえる。
- (2) 「だれが」(主な登場人物) = 「どんなことを言ったか」「どんな行動をするか」を読み取る。

板書例

<p>練習問題</p> <p>登場人物 綾子・ばあちゃん・じいちゃん</p> <p>場面1 「綾子」 家族が恋しくて元気をなくす↓夜になると、ふとんの中で泣く 「ばあちゃん」 孫の「綾子」を心配し、食事にあれこれ気を配る</p> <p>場面2 「じいちゃん」 綾子に任侠物の本をわたす 「綾子」 本を読むことがうれしい 「国定忠治」・「大前田英五郎」 綾子の暮らす群馬出身</p> <p>場面3 「じいちゃん」 ふたりのどっちがすきかを「綾子」にきく 「綾子」 最後まで弱いものの味方をする国定忠治がすきだと答える 「じいちゃん」 おれも忠治の方がすきだ 「綾子」 じいちゃんと考えがいつしよであうらしい</p>	<p>基本問題2</p> <p>登場人物 ももこ・カズくん・まこと</p> <p>場面1 「ももこ」「カズくん」「まこと」 ↓「ゆうや」「たつやくん」が住んでいた家を見に来る</p> <p>場面2 「たつやくん」がリーダーだった『ひみつきち』の思い出</p> <p>場面3 去年の秋、「たつやくん」がかわいがっていたうさぎのおはか作りとおそうしき</p>	<p>基本問題1</p> <p>登場人物 兵十・ごん</p> <p>場面1 「ごん」が「兵十」の家に栗をもってくる</p> <p>場面2 「兵十」の思いちがい「ごん」がうなぎをぬすみに来た</p> <p>場面3 「兵十」が「ごん」をうち殺す</p> <p>場面4 「兵十」が土間の栗を見る↓「ごん」がもってきてくれたことを知る↓火縄銃を落とす ぐったり(シヨック)</p>
---	--	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P22)	問一 1行目注目。答え方と字数に注意させる。 問二 心の中で言っている部分は、「 」が使われていない点と「です・ます」になっていない点に気づかせる。 問三 「兵十」の心の中の言葉に注目。その中で、「兵十」は「ごん」の行動を何と見ているかに注意。 問四 「兵十のおどろきの言葉=思いちがいに気がついた」直前の行動に着目。 問五 おどろき、そして「兵十」はどんな様子になったのか、17行目以降に注目。
基本問題2 (P23)	問一 「カズくん」のつぶやきに注目。にもつを見て、「たつやくん」と「ゆうや」がいなくなってしまったことを実感している。 問二 7行目に注目。桜の木の「ひみつきち」はいろんなものにへんしんしたとある。また、14行目から、「ひみつきち」に行くときの気持ちがわかる。 問三 場面の転換で「思い出」か「今のこと」のどちらなのかを注意する。
練習問題 (P24)	問一 疎開先で家族が恋しく、さびしいという心情をおさえる。 問二 指示語の内容はそれよりも以前に書かれていることに注目。 問三 「じいちゃん」の質問のあと、「綾子」は国定忠治と大前田英五郎の名前をあげている。 問四 大きな声で返事をした部分をおさえる。「綾子」のうれしさが表現されている。 問五 二つ目は11行目から「綾子」が本を読むこと、三つ目は「ある日」で場面が変化している。 問六 さびしい「綾子」を「ばあちゃん」の食事や、「じいちゃん」のわたしてくれる本などの描写から読み取る。

4

物語文 場面の展開

▼指導ページ P 28 ~35▼

☆指導のポイント☆

場面の展開に注目 = 「登場人物の発言・行動」「時」「場所」「できごと」 = ひとつづきのできごとの流れから、山場(クライマックス)での登場人物の気持ちの高まりやできごとのもりあがりをとらえる→クライマックスの描き方・様子から主題をとらえる。

板書例

<p>練習問題</p> <p>登場人物 ほく・おじさん・次郎吉</p> <p>場面1 ほらあな ふるえながら入り込む あなの中 ①シカの群れ(体をすりつけて横になる) ②サルの群れ(ひざを立ててかたまる)</p> <p>場面2 ほら穴の外へでるシカ 片耳の大シカ ↓冷えた体 ↓シカの群れに入れて体をあたたためる ↓次郎吉 銃でうとうとする ↓「ほく」「おじさん」 とめる ↓「大シカに助けられた」 ↓次郎吉 はずかしい</p>	<p>基本問題2</p> <p>場面1 あーちゃんの性格 ①無頓着・おおらか ②負けずぎらい 自分を信じる力強さ</p> <p>場面2 基地をつくるために、斜面を上がる ↓ 僕のため息 あーちゃんが上がれない ↓ 弟に言われて気づく ↓ あーちゃんに悪いことをした ↓ 手助けして登らせよう</p>	<p>基本問題1</p> <p>登場人物 僕・あーちゃん・弟</p> <p>場面1 あーちゃんは体に障害をもつ ↓ 僕はあーちゃんのことを考えると、遊びたい遊びができない ↓ 不満 ↓ あーちゃんがいなければもつといういろいろ遊べると思う ↓ 自分(僕)自身にもいやけ</p> <p>場面2 あーちゃんが投げた石が僕の目にあたる ↓ あーちゃんは謝らない ↓ 謝ってほしい 僕</p>
--	--	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>基本問題1 問一 (P30) 問二 問三 問四</p>	<p>場面転換の一つ = 「時」の転換を表す語に注意。 「あーちゃん」の身体のこと = 15行目に注目。 直前に注目。「あーちゃん」の身体のことを考えて「遊びを制限しようとした判断」のこと。 23~25行目から「僕」が「あーちゃん」にどうしてほしいかを読み取らせる。</p>
<p>基本問題2 問一 (P31) 問二 問三 問四</p>	<p>場面転換の一つ = 「時」の転換を表す語に注意。 「あーちゃん」の性格を記述してある最初~3行目までに注目。 「僕」らが斜面の上にいるとき「あーちゃん」はどこにいたのかを読み取らせる。 消去法を使って選択肢をしぼる。 ア = 「楽しい」 = × イ = 「どうしたんだろう」 = 「僕はあーちゃんの身体のことを知っている」 = × ウ = イと同様の理由 = × オ = 「かわいそう = ため息という表現が適切ではない」 = ×</p>
<p>練習問題 問一 (P32) 問二 問三 問四 問五 問六 問七 問八 問九 問十</p>	<p>シカに対して「ほくたち」が何か行動をしたことが描かれている部分を探させる。 「ほく」以外の登場人物の名前 = 39行目~最後に注目。 ふるえている理由は、22・23行目注目。 直前の部分で複数のものを見つけ出させる。 ほらあなの中の様子 = 4・5行目注目。 「ほく」の考え = 直後の部分 = 以前読んだことがある「探検記」の話に注目。 「どうしたか」を答えさせる設問。「どう思ったか」 = 「あたたかそう」と感じて「生きたい」ほくたちは「どうした」と描かれているかを読み取らせる。17~19行目注目。 「目がさめる」そしてその後「驚いた」→その理由は直後に注目。 直前の「ほく」の言ったことに注目。 場面転換の一つ = 「時」を表す語に注目させる。</p>

5

第1回～第4回のまとめ

▼指導ページ P 36～43▼

板書例

1

形式段落①

＝ 話題 ＝ 人間による文化の発展

◎猿人：石器↓改良され種類も多くなる

形式段落②

＝ 石器以外の道具↓動物の骨や歯・貝殻・木や竹

形式段落③

＝ 文化の発展は脳が大きくなったことに関係＝ 大脳

◎原人：猿人類よりも脳がはるかに大きい

形式段落④・⑤

＝ 原人↓◆火を使った＝ 寒さ・動物からおそれない・料理

※協力↓助けあおうとする考え方

形式段落⑥・⑦・⑧

＝ ◎旧人：五〇万年前↓ネアンデルタール人

身長高い・脳も大きい↓道具の原型がでそう

精神的な面も進歩↓豊かな人間性をもっていた

2

登場人物＝ ぼく・先生・川本君・男の子とその母親

【僕の気持ち】

場面1＝ いつも立たされている「ぼく」・立たされて川本君の泣き顔

今まで＝ 気の持ちようで楽しくなる

最近＝ 居場所がない

場面2＝ 登校するとき＝ 感じのいい「感心な男の」を見かける

自分も「感心な子」になろう↓宿題をやっている

場面3＝ 学校にいかない↓みんなに見つかりたくない

墓地で宿題↓蚊にくわれて逃げだす

今日は立たされて、明日から宿題をすればよかった

3

登場人物＝ 私・妻・岳

【私の気持ち】

場面1＝ 朝、東京に外国からもどって家に帰る

↓岳に帰りをむかえられないだろうと予想

会えない方がいいとも思えるが、すこしさびしい

場面2＝ 三カ月前＝ 以前のように甘えない岳の態度

以前↓岳の素直な表現↓うれしかった

その後↓岳の成長↓以前がなつかしい

場面3＝ 一カ月ぶりの東京の街は寒くなった↓時間がたった

岳の態度の変化を知りたい奇妙な気持ち

ページ・問題番号

指導内容・留意事項など

1 (P36)	問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七 問八	<p>問一 [A] = わかっていませんという内容に注目。 [B] = 木や竹の特徴から判断。 [C] = 15・16行目に注目。</p> <p>問二 前後の文章から働きを確認。 [1] = 逆接。 [2] = 説明。</p> <p>問三 文中から火を使った具体例を読み取る。</p> <p>問四 [A] = 大型の動物の骨も見つかりますに着目。 [B] = 形式段落⑤の1行目から判断。 [C] = 「そうならば～」の後の文章から読み取る。 [D] = 設問内容に合う箇所を文中から読み取る。</p> <p>問五 形式段落⑦は前段落、ネアンデルタール人の説明の続きである。</p> <p>問六 「旧人は仲間を大切にし、死者をうやまつた」という部分に着目する。</p> <p>問七 猿人～旧人までの説明内容に注目し、構成を考える。</p> <p>問八 文化の発展の経過を述べていることに着目する。</p>
2 (P38)	問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七	<p>問一 「気の持ち方しだい」で変わる「ことがら」に注目して直前の部分から探させる。</p> <p>問二 この気持ちは後の部分に描かれていることを読み取らせる。</p> <p>問三 「ぼく」は学校に行っている何をしさせられるか、「ぼく」に話させている部分 = 1・2行目注目。</p> <p>問四 ④の表現から「自分に対して無理にでも納得させようとする気持ち」を読み取らせる。</p> <p>問五 1・2 = 「ふみ出す」という表現 → 「ぼくの気持ちの転換 → 学校にいかないという決意 = 実際の道も行動を選択する道も変更 = 他の人に見つかってはまずい行動」を読み取らせる。</p> <p>問六 後の部分に注目。墓地で「ぼく」がしようとしたことを読み取らせる。</p> <p>問七 「本当ではないこと = 今まで考えていたこと」から「その反対のこと = 本当のこと」。直後の文に注目。</p>
3 (P40)	問一 問二 問三・問四 問五 問六 問七	<p>問一 場面転換の一つ = 「時」を表す語に注目。8行目・36行目注目。</p> <p>問二 「現在のことを描いた部分」の中で、「期間」を表す語 = 45行目注目。</p> <p>問三・問四 「私」の気持ちを「以前の岳の態度に対する私の気持ち (= 17行目)とその後の妻との会話」から読み取らせる。その気持ちが現在の6・7行目や36～39行目につながっていることに気づかせる。</p> <p>問五 「17行目 = 以前の岳の態度に対する私の気持ち」がその後に変化した態度で「私」の感情も「反対」方向に変化したことを読み取らせる。「うれしい」の反対の感情表現を考えさせる。</p> <p>問六 「過去」の部分で妻と会話の対象となっている「日」 = 18～35行目注目。</p> <p>問七 この場合の「不思議」とは「思ってもみなかったこと」という意味。直前の妻の言葉から推量。</p>

6

説明文 指示語から考える

▼指導ページ P 44 ~51▼

☆指導のポイント☆

●指示語のつながりから、論説文を読み解く。

「指示語の指す部分を正確にとらえる」→「文と文のつながり・段落と段落のつながりを明らかにする」→「文章構成を把握する」
→「筆者の考え・主張を明らかにする」

板書例

<p>練習問題</p> <p>【話題】 「ヘラジカ」の栄養のとり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ●必要な栄養＝「エネルギー」「ナトリウム」 ●栄養を含む植物＝「陸上植物」「エネルギー」「炭水化物」 <p>◎水中植物＝ナトリウム</p> <p>筆者が理論的に考える</p> <p>↓「かしこい」食い合わせ</p> <p>＝水中植物とそれより多めの陸上植物</p>	<p>基本問題2</p> <p>【話題】 ことわざの意味＝イヌも歩けば棒にあたる</p> <p>●説明 多くの人＝実際に棒にあたるイヌをみたことがないこと</p> <p>↓「ひどい目にあう」が変化</p> <p>↓「思いもかけない、いい目にあう」↓意味が逆になる</p> <p>筆者の考え</p> <p>＝表面的な文字通りの意味</p> <p>↓ひとつ下「本当の意味」＝「こころ」</p> <p>＝今までの「こころ」＝心理</p> <p>↓見失われる↓「新しいこころ」</p>	<p>基本問題1</p> <p>【話題】 マスコミの取材に自分の意見を明確にしない女性が多いようだ</p> <p>↓なぜだろう？</p> <p>●女性の対応↓◎答えを明確にしないで逃げる場合</p> <p>◎答えをためらう場合</p> <p>筆者の考える理由</p> <p>＝女性の多く＝しつかりした考えを持っている</p> <p>↓社会的な問題に答える場が少ない</p>
--	---	---

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P46)	問一 直前に述べられた具体的な事柄に注目。 問二 8・9行目の「あるいは」に注目。2つの事柄が並べて述べられている。 問三 「断固」に着目して、強い態度を述べた部分を見つけさせる。 問四 「結論」に注目。前に述べてきた事柄をまとめている箇所に注意。16行目「結果」に注目。 問五 数が多くなってきたと思われる女性のタイプを読み取る。
基本問題2 (P47)	問一 話題の中心になっている「ことわざ」を指している。 問二 おこったことはなにか？直前の部分の2つの意味に注目。 問三 「ことわざ」→「命を失う」＝「意味がかわる」 問四 「心理」＝「こころ」に着目。直前の部分に注目。 問五 11行目に書いてある「以前の意味」から推量。
練習問題 (P48)	問一 直前の部分に注目。 問二 2つの主な栄養素ということから、直前の部分で述べられている栄養素に着目。 問三 2つの栄養素が含まれる植物について着目。11～14行目に注目。 問四 ④を含む文の内容から「栄養素をとる場合の植物の食べ方」を指していることを読み取らせて、19行目から④の直前の文までの内容をまとめさせる。 問五 32～34行目に注目。 問六 19行目から30行目の内容を指している。 問七 (1)・(2)＝「逆」の植物である「陸上植物」についての直前の記述に着目。 問八 ⑦の直後の「三条件」に着目。直前の内容で3つのことがらが述べられている部分を探させる。

7

説明文 接続語から考える

▼指導ページ P 52 ~59▼

☆指導のポイント☆

- 接続語のつながりから、論説文を読み解く。
- 文と文、段落と段落のつながりを明らかにするものとして「接続語」に注目させる。「順接」「逆接」「例示」「話題の転換」の接続語から文の要点を読み取る。

板書例

基本問題1
【話題】「トカゲ」と「ヘビ」のちがいを比較する

耳	●トカゲ↓ある・音↓耳で聞く ●ヘビ↓ない・頭の骨の振動で音を知る
目	●トカゲ↓二枚のまぶた ●ヘビ↓まぶたがない
脱皮	●トカゲ↓表面の一部 ●ヘビ↓全部
その他	骨や体の内部にちがいを比較する

基本問題2
【話題】鳥のすみ環境の大切さを説明する

- 大型の鳥↓広い生息地が必要↓数をへらす
- 「食物連鎖」↓「鎖の環」↓鳥・人↓「なかも」
- 鳥↓ほろぶ↓「鎖の環」↓切れる↓人↓打撃
- ↓鳥↓いのちを守る↓人のつとめ

練習問題

実験1 ↓ 観察するもの ↓ 食パン
 用意するもの ↓ 二つの管瓶・食パン・ワサビ・ニンニク・ニラの葉
 ●結果 ↓ カビが生えない

実験2 ↓ 観察するもの ↓ ミツバチ
 用意するもの ↓ 三本のガラスシリンダー・ワサビ・ニンニク・レモンの皮
 ●結果 ↓ 動かなくなる

実験3 ↓ 実験1・実験2の結果の原因を調べる
 ●結果 ↓ 原因 ↓ 植物のにおい

【まとめ】植物 ↓ におい ↓ 動物や細菌から身を守るはたらき

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P54) 問一 問二 問三 問四 問五	1 = 話題の転換。 2 = 前後の内容が対立する関係。 混乱して区別がつかなくなる状態を本文の内容から読み取らせる。 直前の部分から「トカゲ」についての内容をまとめさせる。 「トカゲ」と「ヘビ」を比べている点に注目。 「しかし」に置き換えて、2つの文に分けた時に意味の通るものを選ばせる。
基本問題2 (P55) 問一 問二 問三 問四 問五	「生息地が必要」 ↔ 「生息地がうばわれる」 = 反対の内容。 具体例を示す接続語 = 「たとえば」 並列してことばを記述する接続語 = 「そして・ならびに・および」 1行目に注目。 鳥たちの生活を守れない = 鳥が減る場合の記述に注目。人間がどのような影響をうけるか、という記述に注意させる。
練習問題 (P56) 問一 問二 問三 問四 問五	内容について前・後の部分の関係に注目させる。 1 = 結果の関係。 2 = 対立の関係。 3 = 並列の関係。 文章の最初の部分で、読者に問題を示している部分を探させる。 板書例参照。 1 = 「～原因」という表現に注目。 2 = 他の原因の具体例が直後に述べられている部分に着目。 3 = 原因を調べるために使用したものに着目。32行目注目。 1 = 37行目から最後の行までの内容で、「におい」の役割に着目して内容をまとめさせる。 2 = 45行目に注目。

8

物語文 気持ちと人物像

▼指導ページ P 60～67▼

☆指導のポイント☆

「物語・小説」の作者が「読者に伝えたい思い」

(1)主人公やその他の人物の「言動」を通じて直接的に表現される場合

(2)主人公やその他の人物の「行動」や「情景描写」を通じて間接的に表現される場合＝比喩表現にも注意

板書例

練習問題										基本問題2				基本問題1												
女子たち		あき子		幸夫		洪作		人物		阿部		ミナ		人物		宗吉		天游		人物						
25・26	14・15	19～21	38・39	33・34	10・11	44・45	34・35	28・29	6	注目目行	19～20	11～12	6～7	4・	22	16	8～9	5	注目目行	19～20	12	6～7	16	8	2～4	注目目行
あき子の非難・抗議を支持 ひよどり＝かわいそう 洪作・幸夫↓強く非難・抗議 非難・抗議を終わりにさせよう どうしたらいいかわからないでこまった 非難・抗議を自分に向けさせよう 自分が非難・抗議されることに不満 迷惑 やっかいなものをうけとった＝こまった										気持ち お母さんに自分の作ったちゃわんで喜んでもらいたい お母さんを作りたい 上手にお母さんの顔を作れるか不安 阿部さんの言葉に前向きな気持ちになっている お母さんを亡くしたミナをはげまし、感極まっている ミナの言葉が本気なのかどうか確かめている 自信を持ってないミナに対し、励ましている				気持ち 天游の考えに興味を持っている 天游が医学以外に関心を持っていることにわくわくしている 医学だけではなく、知りたいことを学ぼうとする事は大事				気持ち あたり前のことが不思議でならず、解明したい 自分は変人だと思われていないか不安 入門を断られないか不安								

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 問一 (P62) 問二 問三 問四	①の直後、天游の発言内容に注目。
	「変人と言われたんかいな」、「大きな声で高らかに笑い続ける」など明確な態度を示さない宗吉に不安をおぼえている。
	真顔＝真剣な態度を表しているため、これから大事なことを話そうとしている。
	19行目以降の内容に注目。医学だけが学問ではないと考える心が広い人物。
基本問題2 問一 (P63) 問二 問三 問四	11行目に注目。阿部さんは再度、ミナの意志が本気なのかを確かめている。
	お母さんの顔を作りたいと言ったときのミナの様子に注目。
	言葉にはできないが、心の中でお母さんの顔を作るという思いを強く持っている。
	阿部さんとの会話からミナの人物像を読み取る。
練習問題 (P64) 問一 問二 問三 問四 問五	10・11行目注目。
	ア「なごやか」＝× ウ「うばい合い」＝× エ「見つめる」＝×
	(1)・(2)＝「あき子」の行動に注目。その表現のむけられた先は、「ひよどり」の扱いについてだから、女の子たちに対してではないことを読み取らせる。
	洪作は最初から6・7行目にあるように、「ひよどり」の扱いについて困っていた。さらに、「あき子」の非難と抗議する気持ちを理解していた。それにもかかわらず、「あき子」の非難と抗議が自分のむけられていることので「迷惑」した。つまり、「あき子」の自分にたいする非難と抗議に不満があった点を読み取らせる。45行目注目。
	「(自分)も」という点から、この行為は「幸夫の行為」を指していることを把握させる。直前の部分にある「幸夫」の「解決法」としてとった行為を字数に注意させてまとめさせる。

☆指導のポイント☆

●気持ちの変化の読み取り

登場人物の物語の中での気持ち変化を読み取ることは、主題をとらえる手段の重要な要素となる。

「気持ちを明らかにした部分」＝会話や登場人物の気持ちを表す表現の中に、感情表現を見つける。

「表情やしぐさ、行為」＝表情は言葉に依らない感情表現の重要な手掛かりの一つである。また、「しぐさ」から登場人物のその時の感情やその時の気持ちをとらえることもできる。さらに、「行為・行動」から、気持ちを読み取る。

板書例

<p>練習問題</p> <p>●父から魚つり名人の話を聞く 「わたし」 〓うおつりが好き 〓つれない ↓父親の聞いてきた「えさ」をためす 〓この「えさ」でさかながつれるかもしれないという気持ち</p> <p>●つぎの朝↓「シズさ」「政一」と天竜川へつりにいく 「わたし」 〓ハエがつれる 〓楽しい 「シズさ」 〓ガゴタをつる 「わたし」 〓うらやましい 「シズさ」 〓ガゴタを三びきもつる 「わたし」 〓ガゴタがつれない ↓くやしい 「シズさ」 〓「わたし」をのこしてさきにかえる 「わたし」 〓つらくてかなしい ↓どうしてもガゴタをつりたい</p>	<p>基本問題1</p> <p>●「アリサ」 〓ちよつとしらけていた ↓転校しても友だちだった子はひとりもないから 〓みんなすぐに忘れてしまった ↓冷めた気持ち</p> <p>●「アリサ」 〓もう期待していなかった ↓手紙を出しても返事はこなかったから 〓クラスの女の子たちが泣き出した</p> <p>●「アリサ」 〓じゅんとした ↓もしかしたら、みんな自分のことを覚えていてくれるかもしれない</p>	<p>基本問題2</p> <p>●「ぼく」 〓裏庭への出入り口にむかって歩きだす ↓三階の手洗い場から見おろす ↓何かヒントになるようなことを探す 〓「陽子」の声 〓いいかたがやさしくない</p> <p>●「ぼく」 〓鏡のなかの自分にやれやれと首をすくめた 〓「陽子」がくまでを池のなかにつつこんでいる ↓「陽子」がみように小さくさびしそうに見えた</p>	<p>基本問題1</p> <p>「アリサ」 〓ちよつとしらけていた ↓転校しても友だちだった子はひとりもないから</p> <p>「アリサ」 〓もう期待していなかった ↓手紙を出しても返事はこなかったから</p> <p>「アリサ」 〓じゅんとした ↓もしかしたら、みんな自分のことを覚えていてくれるかもしれない</p> <p>「ぼく」 〓裏庭への出入り口にむかって歩きだす ↓三階の手洗い場から見おろす ↓何かヒントになるようなことを探す</p> <p>「ぼく」 〓鏡のなかの自分にやれやれと首をすくめた</p> <p>「陽子」がくまでを池のなかにつつこんでいる</p> <p>「ぼく」 〓ちよつとのあいだ「陽子」の姿をながめた ↓「陽子」がみように小さくさびしそうに見えた</p>
--	--	---	---

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P70)	問一 (1)一回目の転校のときも同じようなあいさつをしていたから。 (2)5行目「転校しても友だちだった子なんて～」に注目。
	問二 13行目以降に着目する。アリサの予想外に反してクラスのみんなは別れを惜しんでくれた。
	問三 最後の段落の内容を読み取る。また、14行目の「びっくりした」も心情表現として押さえておく。
	問四 2～4行目に注目。
基本問題2 (P71)	問一 ぼくが裏庭への出入り口にむかったので、探すのを止めたと思っている。
	問二 ②以前の陽子に対する「いいかたがやさしくない」に注目する。
	問三 「窓をしめてくる。」という言葉に対して、陽子が信用していないような返事をしている。
	問四 最後の行の「さびしそう」という表現に注目。ぼくのなかに同情心が芽生えている。
練習問題 (P72)	問一 時を表す語に注目。
	問二 5行目に注目。
	問三 「ように」に着目。26・27行目に注目。
	問四 21行目注目。
	問五 31～33行目の「わたし」の様子から推量。
	問六 42行目に注目。
	問七 「大きな声」に注意。気分が高まっている様子を読み取らせる。
	問八 釣れなくて「つらい」気持ちとどうしても釣りたい気持ちが「意地」になっている「わたし」の気持ちを読み取らせる。

板書例

<p>③</p> <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">場面</td> <td>友人がカルタをはじめ 友人に勝ちつづける 全財産⇨友人↓かける 友人に勝つ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">「わたし」の気持ち</td> <td>↓しかたない ↓うれしい・夢中 ↓勝って財産を手にいれたい ↓魔術をつかう ⇨相手にじまん</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ミスラがあらわれる</td> <td>↓魔術をつかう資格がない ⇨はずかしい</td> </tr> </table>	場面	友人がカルタをはじめ 友人に勝ちつづける 全財産⇨友人↓かける 友人に勝つ	「わたし」の気持ち	↓しかたない ↓うれしい・夢中 ↓勝って財産を手にいれたい ↓魔術をつかう ⇨相手にじまん	ミスラがあらわれる	↓魔術をつかう資格がない ⇨はずかしい	<p>②</p> <p>【話題】 地図・地球儀をいろいろな方向から見てみる</p> <p>【筆者の気持ち】 ⇨新しいものを見たおどろき</p> <p>【筆者の考え】 ⇨地図・地球儀だけではない ↓新しい方向からものを見ること ⇨新しい発見</p>	<p>①</p> <p>【話題】 オオカミを殺すこと</p> <p>●オオカミ⇨人・家畜をおそう ↓誤った考え・人が責められることをした</p> <p>●オオカミを殺す⇨無差別に毒をまく ↓他の動物・家畜も殺してしまう⇨人間自身に害</p> <p>⇨人間の生活にじやまなものを殺してしまおう ⇨戦争をひきおこす考え</p>
場面	友人がカルタをはじめ 友人に勝ちつづける 全財産⇨友人↓かける 友人に勝つ							
「わたし」の気持ち	↓しかたない ↓うれしい・夢中 ↓勝って財産を手にいれたい ↓魔術をつかう ⇨相手にじまん							
ミスラがあらわれる	↓魔術をつかう資格がない ⇨はずかしい							

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>① (P76)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七 問八 問九</p>	<p>14・15行目に注目。オオカミに対する考えも同じという点に注意。</p> <p>人びとの間に一般的なものとして定着する状況を表す慣用句。</p> <p>前後の部分の内容の関係を読み取らせる。 [1] = 対立する内容。 [2] = 並列。 [3] = 話題の転換。 [4] = 説明。</p> <p>ヤングの調べた結果に着目。26・27行目注目。</p> <p>オオカミに対する誤った考えを読み取らせる。31・32行目に注意。</p> <p>「すなわち」に着目。直前の内容を④が言い換えている。</p> <p>自分の行為が原因で、結果として自分が不利益を受けることになる状況表現することわざ。</p> <p>52～55行目のオオカミについての記述を「害虫」におきかえさせて、内容を読み取らせる。</p> <p>「考え」という語に着目。61・62行目に注目。</p>
<p>② (P78)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五 問六</p>	<p>前後の内容から関係を判断させる。 [1] = 説明。 [2] = 対立の関係。 [3] = 当然の結果。</p> <p>直前の部分で筆者が興味を示したことに注目。</p> <p>通常とは異なる見方を探させる。書きぬく字数をヒントにする。9行目注目。</p> <p>「逆」に着目。今まで＝「頭の方が重い印象をもたせるもの」＝大陸。「さむざむとしてさびしい印象」＝南半球の海洋部。</p> <p>直前の部分で筆者がくり返し行ったことに着目。</p> <p>「方向」という語に着目。28行目注目。</p>
<p>③ (P80)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五 問六 問七</p>	<p>前の部分の「わたし」の様子＝3行目に着目。</p> <p>後の友人のことばから、その気持ちを推量させる。</p> <p>1・2＝23～26行目に注目。</p> <p>「カルタのキング」という語に着目。39・40行目から「ミスラ」と推量できる。</p> <p>(1)＝「ゆめ」からさめて現実にもどる場面の転換を見つけさせる。(2)＝44・45行目に注目。</p> <p>48・49行目に注目。</p> <p>板書例参照。</p>

11

詩 表現を中心に読む

▼指導ページ P 84 ~91 ▼

☆指導のポイント☆

- 詩と散文の違いをとらえる。
- 用語や字数のきまり・内容で区別される詩の種類をチェック。
- 詩に使われる特有の表現とその技法に慣れる。
- 詩の感動の中心に特有の表現・技法がつかわれている。

板書例

練習問題 2

●球根の芽

「球根」 命のかたまり

「球根の芽」 一本のきば

「そら」 なんにもいわないで、きばを包んだ

↓強さ・大らかさ

練習問題 1

「じどものことば」 土の中に植物を育てる水がある

こどもへの呼びかけ 忘れないでほしい 土の中の虫

こどもへの呼びかけ 忘れないでほしい 虫や植物を育てる土

「にんげん」 自然の大切さを忘れないでほしい

基本問題 2

●風呂場で犬を洗う

「飼い主」 犬をきれいにしてあげたい

犬 きれいにしてほしい、とは思わない

飼ってもらっているのだからかたがない

心の中に不満

「飼い主に皮肉でもいいたい」

基本問題 1

ちびへび 春の暖かさ ↓ 散歩

ちびへび 気持ちのよいあいさつ

小鳥 かわがる

「いたち」 けいかい

仲間のへび 見ていないところ ↓ わらう

ちびへび 気持ちが落ちこむ ↓ 家に帰る

ちびへび 散歩したい ↓ ひとりで出かける

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P86)	問一 使われている語=口語 語数=決まっていない=自由詩 気持ちを表現=叙情詩 問二 「小鳥」「いたち」「仲間のへび」の様子から推量。 問三 「ように」に注意。 問四 倒置の表現技法が使われている。
基本問題 2 (P87)	問一 誰が洗われているか、を読み取らせる。 問二 (1) = 「シャボン」から推量させる。(2) = 実際の空にある「雲」ではない。「ようだ」を使わないで「たとえば」いる技法 = 隠喩 問三 風呂場で洗ったのは「飼い主」であることから推量させる。 問四 犬にとって、人に飼われたことで失ったであろうものを推量させる。 問五 犬の様子から、その心の中で飼い主に対して思っていることを読み取らせる。
練習問題 1 (P88)	問一 「 」の部分に注目。 問二 「土」という語に注意。20行目注目。 問三 築くのは、人のすることなので、人工的なものを表現していることから判断。 問四 (1)・(2) = 「～の～を～するな」という内容になることを読み取らせる。 問五 19行目・26行目に注目。忘れてはいけないこととは何かを読み取らせる。 問六 呼びかけの語句に着目。5行目の次に呼びかけている16行目に注目。
練習問題 2 (P89)	問一 「きば」きゅうこんから芽が出たことを表現していることに注目。 問二 第二連に注目。「そらをつきさした」とある。この表現に着目して読み取らせる。 問三 空が持つ「強さ」「大らかさ」という描写から推量。

12

◆ 説明文 段落と段落のつながり ◆

▼指導ページ P 92 ~99 ▼

☆指導のポイント☆

- 段落をふまえた読解の手順 → 形式段落(改行と書き出しの「一字下げ」に注意) → 各段落の要点をおさえて、意味に注目してまとめる → 意味段落(いくつかの形式段落の集まり) → 文章の構成をとらえる → 文章全体の「組み立て」
- 論説文・説明の基本構成3つのパターン
 - ①「序論」(話題提示)→「本論」(説明)→「結論」(筆者の意見・考え)
 - ②「結論」(筆者の意見・考え)→「本論」(説明)
 - ③「結論」(筆者の意見・考え)→「本論」(説明)→「結論の反復」(筆者の意見・考え)

板書例

練習問題

形式段落①～⑤

- 「小説の書き方」

ヒント・アイデアを得る＝目的意識をもって考える
アイデアから主張へ＝主張を盛り込む
取材をする＝人の話をきく

形式段落⑥～⑨

- 「アイデアを得る例」

家系にかかわる話題の小説→アイデアを得る

基本問題2

【話題】 動物に「ことば」があるか？

←

●「アリのこと」

巣にエサを運ぶアリ↓においを「ことば」として利用するアリ

←

●「犬・猫のこと」

犬・猫＝「ことば」としておいを使う

基本問題1

【話題】 なぜ、名前があるのか。

- 人間の場合↓名前＝だれでもある
- 動物の場合↓ペット＝名前ある

↓のら犬＝名前がない

←

名前をつける理由↓特別な意味をもつ

人間に名前がある↓かけがえのない大切なもの

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P94)	問一 読者に疑問を示している部分に着目。「書きぬく」ことに注意。 問二 形式段落②・③の内容をまとめさせる。 問三 21・22行目注目。 問四 板書例参照。「話題をしめす」→「例＝●身のまわりのもの●動物」→「筆者の考え」
基本問題2 (P95)	問一 読者に疑問を示している部分に着目。解答方法に注意。 問二 (1)・(2)＝アリのことを記述してある形式段落②・③に注目。形式段落②では、動物の「ことば」の中の「アリ」についての話題を読者に示している。それを受けて答えているのが、形式段落③。 問三 21行目に注目。 問四 形式段落→「最初」と「最後」の文に注目＝要点が書かれていることが多い。 問五 形式段落ごとにテーマを整理させる。板書例参照。
練習問題 (P96)	問一 ①＝例をしめす ②＝逆接 ③＝論を進める ④＝当然の結果 問二 直前の語句に注目。 問三 (1)＝形式段落②のまとめ。最後の文に注目。(2)＝何に気づいたのか、を読み取らせる。 (3)＝考えついたアイデアに内容を読み取らせる。14・15行目に注目。 問四 それぞれの形式段落の要点を表すキーワードを見つけさせる。 形式段落③＝「アイデア」 形式段落④＝「主張」 形式段落⑤＝「取材」 問五 (1)・(2)＝「小説の書き方」と「アイデアを得た例」を述べた部分に注意。板書例参照。

13

物語文 できごとと気持ちの関係

▼指導ページ P 100～107▼

☆指導のポイント☆

- ①物語の展開を追う→場面の展開に注意する→主人公の気持ちの動き(変化)に注意する
- ②物語の中で、主人公や展開にもっとも大きな変化をあたえるできごと・事件＝やま場に注目する→できごと・事件の原因と結果を読み取る

板書例

練習問題		基本問題2		基本問題1	
空気ポンプはこわれていない	「金さん」がいない	「わたし」の詩にケツサク	ケツサクができない	「わたし」の詩にケツサク	「わたし」の気持ち
空気ポンプを次郎さんがつかう	自転車の屋に行く	ほかの子が書いた作文をまねる	ほかの子が書いた作文をまねる	「わたし」の詩にケツサク	「わたし」の気持ち
こわれていることがわかるとこまる	よかった	うさぎたちはおかしなほめかたをして、わたしはわらってばかりいる	うさぎたちはおかしなほめかたをして、わたしはわらってばかりいる	はりだされたい↓また、ケツサクをかこう	はりだされたい↓また、ケツサクをかこう
こわられていないおどろき	しかられる↓あきらめ	さあっている	さあっている	↓はりきる	↓はりきる
こころがはれる	「正九郎」の気持ち	ためらっている	ためらっている	あせる	あせる
		「わたし」の気持ち	「わたし」の気持ち	じぶんにだませない	じぶんにだませない
		うれしい	うれしい	↓はずかしい	↓はずかしい

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P102)	問一 うれきさい気持ち。 問二 新しいケツサクを「わたし」に期待する先生の気持ちが表れた言葉 11 行目から推量。 問三 直後の段落から、どうしてもケツサクを書きたい「わたし」がとった行動に着目。 問四 「うつむく」行為から、だました先生の顔を見ることができない程度に「うしろめたい」気持ちを読み取らせる。
基本問題2 (P103)	問一 1 行目。「でも、わたしへただから…」という会話から練習をためらっていることが読み取れる。 問二 直後の段落で「さむくなかった」「みじめじゃない」とあることから「わたし」の気持ちを推量する。 問三 (1)直後の 22 行目～24 行目の表現から推量させる。 (2)ころばずつづけてすべれた＝「天にもものぼる気持ち」なので、字数にしたがってまとめる。
練習問題 (P104)	問一 (1)＝しかられることを覚悟していたことを読み取らせる。 (2)＝しかられることへの「正九郎」なりに考えた対応策を描いた部分を探させる。15 行目注目。 問二 前の部分に描かれたその場の状況から、「正九郎」の気持ちを推量させる。 問三 見ていないのに場所を知っているということから、今まで空気ポンプのことが気になって頭からはなれなかった「正九郎」の気持ちを読み取らせる。 問四 30～32 行目から「正九郎」の気持ちを読み取らせる。 問五 (1)＝「正九郎」を悩ませていた「空気ポンプ」に注目。「苦しみがなくなる」とは「空気ポンプがこわれていなかった」こと。34・35 行目注目。 (2)＝「心配」なことが解決して心が晴れた「正九郎」の気持ちを読み取らせる。

☆指導のポイント☆

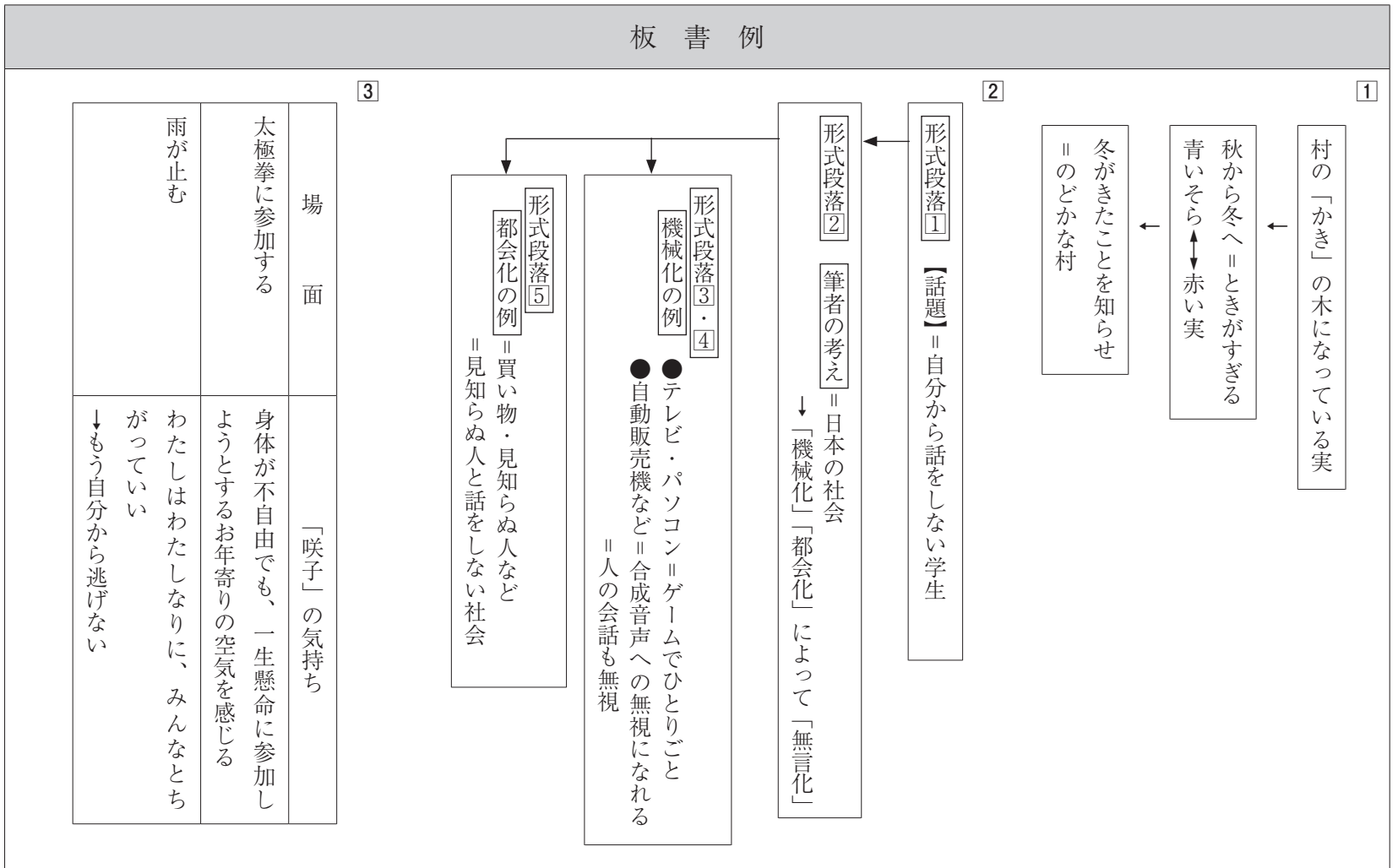
- 登場人物の性格の読み取り→「行動・会話の内容・考え方・登場人物相互の評価」から性格を読み取る
- 主題をつかむ→場面の転換に注目する→山場から主人公の気持ちや考え方の変化に注目する→物語の主題を読み取る

板書例

練習問題		基本問題2		基本問題1	
◎日曜日の朝	場面	◎「これまで」	場面	◎「わたし」	場面
「おぬいばあさん」から「所長さん」のところに朝顔を届けるように言われる		「洪作」の忘れ物↓「おぬいばあさん」が届けにくる ＝授業中断		「わたし」の気持ちが「ひぐちくん」につたわる	
◎所長さんの家の玄関の前 仙人掌の植木鉢＝上等な鉢		◎「その日」		「わたし」＝てん校	
「あき子」に朝顔をわたす		「おぬいばあさん」が羽織を届けにくる		↓「ビー玉」を「ひぐちくん」にわたしてくれるように「カヨちゃん」にたのむ	
◎帰り道					
「あき子」の表情を思いかえす					
	「あき子」への恋心		「洪作」の「おぬいばあさん」への気持ち		「わたし」の気持ち
	気持ちが落ちこむ 顔が赤くなる		↓はずかしい ↓やっかい		カッとする
	気がすすまない		頼りない＝心配 思いやり		「ひぐちくん」にすまない＝気づかい
	「洪作」の気持ち				「ひぐちくん」への真剣な思い

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 問一 (P110)	8行目に注目。
問二	①の直後に注目。
問三	「わたし」の「ひぐちくん」への真剣な気持ちを感じたから、「ひぐちくん」のことで「わたし」を以前にはやしたてて、その結果、「わたし」と「ひぐちくん」の関係を気まずくさせてしまったことを、「カヨちゃん」は「わたし」にあやまった。
問四	「わたし」＝「はやしたてられてカッとなる様子」・「「ひぐちくん」への気づかい」・「「ひぐちくん」にビー玉をわたす思い」から判断。 「カヨちゃん」＝「「わたし」をはやしたてる様子」・「「わたし」にあやまる様子」から判断。
基本問題2 問一 (P111)	2・3行目に注目。
問二	「おぬいばあさん」から受け取った羽織を洪作はどうしたか、に注意。18行目に注目。
問三	直前の部分から「おぬいばあさん」をどのように「洪作」は感じているか、読み取らせる。
問四	21・22行目に注目。
練習問題 問一 (P112)	「持っていきたい気持ち」＝あい色の大輪の朝顔。「持って行きたくない気持ち」＝貧相な鉢。
問二	「おぬいばあさん」は朝顔の鉢の様子にはこだわっていないことから判断。
問三	上等そうに見える仙人掌の鉢と対比した表現。
問四	30・31行目に注目。
問五	「鉢を気にかける」・「あき子への思い」から判断。
問六	場面の山場は「あき子」に朝顔をわたすところ。そこで描かれた「洪作」の様子から気持ちを推量。

板書例



ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
① (P116)	問一 変化する様子に注意。「つゆ」→「しも」→「白く」 問二 うれた実が人に取られていくことを、読み取らせる。 問三 (1)＝「ように」に注意。(2)＝小さくて、数の多い「ごま」をまくことから推量させる。 問四 次の連で「実」が「～のように」とたとえられたものに注目。 問五 問四の解答から推量。これから「冬」がやって来る頃。学生の用事から推量させる。
② (P117)	問一 7・8行目に注目。 問二 形式段落①に述べられた学生の様子から推量させる。 問三 板書例参照。 問四 現在の社会・今の遊び・無言性・声を無視＝「機械」に関連する語句や内容に注意。 問五 ①＝対立する内容 ②＝結果を後に続ける ③＝付け加える 問六 直前の部分で「声」に関する記述に注意。 問七 形式段落⑤に注目。「買い物」「出会う人」「ラッシュ時」という語に着目して内容をまとめさせる。 問八 板書例参照。 問九 「話題」→「筆者の主張」→「2つの例」の構成。多くの場合、筆者の主張は文章の最後の形式段落にあるが、「筆者の主張・考え」→「説明」の構成もあるので注意。 問十 A＝心配する様子 B＝力強く運動している様子 C＝布が風に強く吹かれている様子
③ (P119)	問一 A＝お年寄りの身体の状態 B＝お年寄りの行動 C＝お年寄りの気持ち 問二 慣用表現。笑っている様子をあらわす。 問三 直前の文で、汗ばむ程に身体が温まっていることを読み取らせる。 問四 8行目。お年寄りたちの参加する姿に感化され、自分から輪の中に入ろうとしている様子を読み取る。 問五 山下さんが咲子に対して取った行動から人物像を推量。 問六 A…雨の降り方 B…雨の様子を比喻で表現 C…窓から見た外の景色 問七 ①＝注意深く見る様子 ②＝視界がまだはっきりしていない様子 ③＝咲子の気持ちと船の動きを重ね合わせている様子 問八 (1)47～49行目。気づくまでは逆に、クラスのみ人と同じでなくてはいけないと思っていたことを読み取らせる。 (2)お年寄りが一生懸命がんばっている姿を見て、ありのままの自分を受け入れようと決めたことを読み取らせる。 問九 天候の変化が主人公の気持ちの変化と重ね合わせて描写されていることに注目。 問十 お年寄りたちの前向きな姿勢、咲子の心情の変化を読み取り、推量させる。

☆指導のポイント☆

- 「要旨」＝筆者の主張・考え
- 「要旨」をつかむ方法＝形式段落の要点をつかみ、要点をつないで意味のまとまりから意味段落を区分することで、文章構成を理解する。その上で、筆者の主張や考えが述べられている中心段落を把握する。とりわけ、文末「～と思う」「～と考える」「～するべきだ」などに注意して要旨をつかむ。
- 「要旨」のまとめ方＝文章中の「ことば」を使用して、筆者の主張・考え方を簡潔にまとめる。解答にあたり「字数制限」の指示があるものは注意。

板書例

<p style="text-align: center;">練習問題</p> <p>◎ 「対人関係」から生まれたむかしの遊び ・ベーゴマ ・凧揚げ ・メンコ ・竹トンボ</p> <p>◎ 遊ぶためには創意工夫が必要↓「勝負」という「対話」を交わすため</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">筆者の考え</p> <p>子どもが成長するなかでは、「対人関係」を持つことが必要 ↓ 「遊び相手」のいる遊び</p> </div>	<p style="text-align: center;">基本問題2</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 貝塚とは＝大むかしの人が食べた後の貝を集めた所 ● 貝塚からわかること ① その近くで人が生活 ● 貝塚のふしぎ＝今の海岸線↓陸地のおくにある ● 貝塚が教えてくれること＝当時の海岸線 ② 海が近くにあった </div>	<p style="text-align: center;">基本問題1</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">例</p> <p>＝クルマではじめての場所に行く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図を見て運転 ・カーナビを使って運転 </div>	<p style="text-align: center;">筆者の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図を見る：自分で運転する楽しみ <li style="padding-left: 20px;">↓ 創造的作業 ・カーナビを使う：頭が空っぽの状態 <li style="padding-left: 20px;">↓ 「頭の快感」につながる余地がない ↓ 自分で考えることをやらなくなる危険
--	--	--	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>基本問題1 問一 (P126)</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p>	<p>第3段落の内容に注目。著者はカーナビでの運転はバック旅行に似ていると述べている。</p> <p>14行目冒頭に「以前のように」とあることから、現在のカーナビを使った運転ではないことに着目。</p> <p>第2段落ではカーナビを使う人の様子を述べている。「頭を空っぽの状態にして」という部分に着目する。</p> <p>この文章の要旨は最終段落で述べられている。最終段落初めの文に、著者の考えがまとめられている。</p>
<p>基本問題2 問一 (P127)</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p>	<p>①＝理由の説明 ②＝例を並べる ③＝例をあげる</p> <p>8～11行目の内容をまとめさせる。</p> <p>「はず」と「見つかる」に注意。「当然考えられる結果＝海岸の近く」と「事実＝海岸からはなれた陸地」という内容を読み取らせる。</p> <p>「事実を明らかにすること・事実の説明」と「筆者の考え」を読み分けさせる。文章の最後の段落に注目。</p>
<p>練習問題 (P128)</p> <p>問一</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p> <p>問六</p> <p>問七</p>	<p>往復関係＝気持ちや言葉を相手との間で往復させる。</p> <p>②の直前に注目。字数指定に注意しながらまとめること。</p> <p>①＝順接 ②＝逆接</p> <p>③の直後の段落に着目。「蠟を塗って…」と具体例を挙げていることに注目。</p> <p>(1)文章中に出てきた「むかしの遊び」に注目。</p> <p>(2)具体的事例は著者の要旨の根拠になっていることに着目する。相手と勝負をするうえで重要なことは何かを読み取らせる。</p> <p>42行目に注目。「勝負という対人関係」の内容を読み取り、著者は成長につながる機会だと考えていることを抑える。</p> <p>第2段落に著者の考えが述べられている。「遊び」「対人関係」といった言葉に着目する。</p>

17

物語文 気持ち・人物像・主題

▼指導ページ P 132～139▼

☆指導のポイント☆

●物語文における主題のとらえ方の手順

「場面・情景・人物をおさえる」→「物語の展開・やま場をつかむ」→「登場人物の言動や情景に注目する」→「主人公の気持ちの変化・人物像をとらえる」→「物語の主題を読み取る」

板書例

練習問題

四年生の初登校日
担任＝角田牛乳のおばさん
「私の気持ち」→おどろき

チヅル＝小学校にあがったとき
角田牛乳の牛乳＝牛乳臭い牛乳
「私の気持ち」→きらい＝イナカくさい牛乳

畑＝かくれんぼ遊びと角田牛乳のおばさん
角田牛乳のおばさん＝しかられる・大柄・仁王立ち
「私の気持ち」→こわい

基本問題2

◎音楽発表会で担当する楽器

●マリンバをひきたい、とつよくのぞむ裕香
↓ピアノをひくと思っていた先生＝気落ちした様子

●裕香がいつしよに練習しよう↓「ぼく」に近づく ←

●まわりの目が気になる「ぼく」 ←

●友だちに冷やかされる ←

基本問題1

場面	
●名まえをかえる 元康↓家康 松平↓徳川	家康に心をゆるす 信長の気持ち
●姓をかえる	家康のおさないころからのくろうを思う

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など	
基本問題1 問一 (P134) 問二 問三	12行目に注目。 家康の会話に興味をもって聞いている信長の様子から推量させる。 家康の経験に着目。27行目に注目。	
	基本問題2 問一 (P135) 問二 問三	(1)＝「先生」の言葉に着目。「なんか」に注目。(2)＝①の直後の「先生」の言葉の中にヒント。 「先生」の「裕香」に対する要望が実現しなかったことから推量させる。 ③の「感じ」に着目。「裕香」の申し出を、「ぼく」は本心から迷惑だと思っていないことを読み取らせる。
	練習問題 問一 (P136) 問二 問三 問四	直後の「興に」のるという語句に着目。楽しい時を過ごしていることを読み取らせる。 直前の部分35・36行目に注目。 (1)＝直前の54行目の「チヅル」の様子に注目。(2)＝17～19行目に注目。 板書例参照。時間的な経過に注意。

板書例

②

急流をカヌーで下る
＝男・少年3人

- 建設省の職員＝カヌーで川を下る「男」と「少年たち」↓おどろく
- 「男」＝少年たちに急流を下ること↓やりとげさせてやりたい
- 「少年」＝「男」↓たよりに思う
- ↓急流をくだる＝不安
- ↓「男」の言いつけ↓思いたず
- ↓急流を下りおえる
- 「少年たち」＝やりとげたこと＝ほこりに思う

①

【話題】＝ホテルが生きていくための自然条件

◎小さな生き物が住める場所がどんどんせまくなっている

↓もつと自然がなくなってしまうかもしれない

- ・自然のまま残しておく場所をきめて、絶対に手をつけない
- ・農業を使わない田んぼや畑をつくり、昔の農村にする

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>①</p> <p>問一 (P140)</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p> <p>問六</p> <p>問七</p> <p>問八</p>	<p>① = 順接 ② = 逆接</p> <p>形式段落①に着目。川底の石には、ホテルのえさとなる巻き貝のえさがある。</p> <p>一つ目の条件は形式段落⑤～⑨にある。合成洗剤や農薬と候補は複数あるが、五字での表現に注意する。二つ目の条件は形式段落⑩～⑮。しめった空気を「逃さない」＝「たくわえている」。</p> <p>直後の形式段落⑫に注目。川の様子が具体的に述べられている。</p> <p>④の直前の内容に注目。「そのため」は「順接」の接続詞なので、前の内容が原因・理由となる。</p> <p>小さな生き物が住める場所＝へっている 自然＝なくなってしまうという部分を読み取らせる。</p> <p>要旨は文章の最後に書かれている。文末表現「…とおもいます」にも着目。</p> <p>前半＝ホテルが生きていくための川の条件 後半＝小さな生き物が住める環境を残すにはどうすべきか</p>
<p>②</p> <p>問一 (P141)</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p> <p>問六</p> <p>問七</p> <p>問八</p> <p>問九</p>	<p>この先に滝があって流れが急な「川」で「フネ」をこいで「海」まで行く人を、職員はたびたび見なかった、ことを読み取らせる。</p> <p>川の様子を描いた部分に注目させる。19行目に着目。</p> <p>直前の「も」に注意。直前の部分の「犬」の様子から推量させる。</p> <p>直後に「男」の気持ちが描かれていることに注意。</p> <p>③少年への「男」への気持ちを読み取り、その気持ちから推量させる。 ④川の様子を表した語句から推量させる。</p> <p>大声で叫ぶときはどんな状況のときか、「男」が少年に言った内容＝41・42行目から推量させる。</p> <p>63・64行目に注目。</p> <p>直前から⑥を言った少年がどんなことをしたのか読み取らせる。</p> <p>89～91行目の「男」の言葉を受けて⑦となったことから推量させる。</p>